

「3・6 ウィシュマさん一周忌全国一斉行動」の呼びかけ

2022年2月12日

2021年3月6日、名古屋入管に収容されていたスリランカ人女性、ウィシュマ・サンダマリさんが亡くなってから、間もなく1年が経ちます。法務省・入管庁は、昨年8月10日の「調査報告書」の公表以降、「出入国管理の使命と心得」の策定、「出入国在留管理署の収容施設における医療体制の強化に関する有識者会議」による報告書作成（2022年3月予定）、職員に対する監察を担う「出入国在留監査指導室」の設置（2022年4月予定）など、医療問題を中心に収容場の処遇改善を進めていると積極的にアピールしていますが、ウィシュマさんが亡くなった現場である名古屋入管をはじめ、全国の収容施設における入管の処遇は改善されていません。

入管は、「送還忌避者」（全国で約3100人）の全てを送還しようとしています。つまり、「送還一本やり方針」を強行するために、昨年廃案となった入管法改悪法案を再び提出して、入管の権限をさらに強化しようとしています。しかし、この中には、国際基準とかけ離れた日本の消極的な難民受け入れによって難民不認定となった人や、未成年仮放免者等も含まれています。

私たちは「送還一本やり方針」に基づく入管の民族差別・人権侵害を看過してきたことを日本社会の一員として真摯に受け止め、二度とウィシュマさんのような犠牲者を出さないために、入管法改悪の提出に反対します。そして「送還忌避者」問題を解決するために、国際基準に基づく難民受け入れと、在留特別許可基準の大幅緩和を求めます。①名古屋入管死亡事件の真相究明、及び遺族へのビデオ提供、②「送還一本やり方針」の撤回、③入管医療の抜本的改革、の3点を掲げ、3月6日に全国（仙台、東京、高崎、名古屋、大阪、京都、高知）でデモ、スタンディングアクション等を計画しています。より強く、広範な世論を形成するため、全国各地で上記の趣旨に基づき実行委員会等を立ち上げ、一斉行動を起こしましょう！

企画の際は、ウィシュマさんの死亡確認時刻の15時25分に黙とうの予定を入れてください。実行委員会や行動計画を立てた際には、入管闘争市民連合までご連絡のうえ、各地の現地メディアにも宣伝してください。なお、「趣旨に賛同して、一斉行動に参加もしくは企画したいがどうしたらよいだらう？」といったお問い合わせもお受けします。

呼びかけ人

「入管の民族差別・人権侵害と闘う全国市民連合(略称：入管闘争市民連合)」

HP: <https://www.ntsiminrengo.org/>

Twitter: @nyukan_alliance

(問合せ先メールアドレス: info @ntsiminrengo.org)